

令和元年度 第1回神戸市外国人市民会議 議事要旨

市長室国際部国際課

日時	令和元年11月6日(水) 15:00 ~ 16:30	場所	神戸国際協力交流センター会議室
出席者	兵庫県立大学経済学部教授 陳来幸、神戸大学理事・副学長(国際・評価担当) 吉井昌彦、 在日本大韓民国民団兵庫県地方本部事務局長 金相英、学校法人兵庫朝鮮学園理事長 金錫孝、 神戸華僑総会事務局長 石鋒、一般社団法人神戸倶楽部顧問 F. E. レオンハート、ベトナム夢 KOB E代表 ズオン・ゴック・ディエップ、マサヤンタハナン代表 戒香里菜、在日本印度商業 会議所 ニシャット・トラバリー、関西ブラジル人コミュニティ CBK 代表 松原マリナ、ひよ うごラテンコミュニティ代表 大城ロクサナ、神戸菅原奨学金奨学生同窓会 林 文勇〔敬称 略〕 市長室国際部国際課(事務局)、神戸国際協力交流センター(KIC)、神戸市海外ビジネスセンタ ー		
議事	(1) 神戸市海外ビジネスセンターについて(神戸市海外ビジネスセンター) (2) 神戸国際コミュニティセンターの機能の拡充について(神戸国際協力交流センター) (3) 日本語学習支援について(国際課) (4) 日本人と外国人の交流の推進について(国際課) (5) 情報発信について(国際課)		

1. 開会

新たにマサヤンタハナン代表の戒香里菜氏及び神戸大学理事の吉井昌彦氏が委員に就任
 陳委員を座長に、吉井委員を副座長に選出

2. 議事

(1) 神戸市海外ビジネスセンターについて

(神戸市海外ビジネスセンター(以下、ビジセン)より資料に沿って説明。)

委員) 外国人留学生のための合同企業就職説明会への企業の出展は有料か?
 ビジセン) 1万円申し受けている。

委員) 中国や韓国・朝鮮の企業であっても出展できるのか?
 ビジセン) 神戸市内の企業であれば可能。

委員) 出展企業の動機はどのようなものか? 特定の人材を狙っているのか。広く人材不足を補うためか。
 ビジセン) 企業は目的をもって出展している。私がどのような人材を求めているか必ず確認したうえで、
 出展してもらっている。そうしないとマッチングに至らない。どのような言語を求めている
 か、どういった地域に海外進出したいかなどを確認。

委員) 主に言語ができる人材を求めていると考えてよいか?

ビジセン) そうである。留学生は母国語ができる前提で、日本語でコミュニケーションを取ることので
 きる人材を求めている。

委員) 企業は外国人にどんどん来てほしいと思っている一方、入管がブレーキをかけているような気が
 する。企業はこの人材がほしいと思っても入管はだめという。

ビジセン) 入管は一人一人を審査して判断しているようにみえる。日本に入ってくるためのビザを出し
 てもらえるかどうかは間に入る行政書士の力にもよる。

委員) 留学生が卒業後に働きたくても、その間のビザが出ずに、スムーズに就労に至らないという事例
 があると聞いている。

ビジセン) 行政書士によく相談していただくしかないと思っている。

K I C) 制度上は特定活動というビザがあり、6か月以内で就職活動や起業準備が可能。学校で推薦書
 を書き入管に申請する。この場合も行政書士によく相談されるとよい。

座長) 大学生が就職活動をするためのビザは緩和されていると聞いているが。

副座長) 海外から日本の大学に入学するためのビザの認定は厳しくなっているが、大学卒業後のビザは
 若干緩くなっている。

委員) 在日の4世5世といった特別永住者も就職説明会に参加できるのか。

ビジセン) 可能である。特別永住者は就労に制限がないので企業としてもありがたいと思う。

委員) 先ほど 25 名の内定者という話があったが、特徴はあるのか。

ビジセン) そこまでは把握していない。

委員) 神戸で働く外国人は今後も増えていくと思われるが、そうした外国人に対するサポートは神戸市で行っているのか？

ビジセン) 外国人採用後に押えておくべきポイントなどを説明する雇用管理セミナーを企業向けに年 2 回ほど実施。住宅の確保や就業規則の多言語掲示等について啓発している。

委員) 採用後、企業と採用された外国人の間でトラブルが起こることがある。そうした場合にどのように神戸市では対応しているのか？NGO に相談すべきなのか？KIC か？窓口が明確でなく、外国人は困っている。

K I C) K I C では月に 2 回行政書士による相談を実施。また神戸市でも様々な専門相談を実施しており K I C から同行通訳者を派遣することができる。K I C に気軽に相談をいただければ。

(2) 神戸国際コミュニティセンター (K I C C) の機能の拡充について

(K I C より資料に沿って説明。)

座長) 30 年かけて 10 言語になったということで、ここまで来たかといった感じがする。

委員) 私も 3 年前まで K I C C で通訳をしていたが、フィリピン人の相談者は少なかった。みんな民間に相談に行っている。K I C C をもっと P R してもう少し知られるようになってほしい。

委員) 同行通訳を依頼したが、断られたケースがあったと聞いた。うるさく言われると通訳できないと言われたと言っていた。彼女はある程度日本語を聞き取ることはできるが、言葉にするのが難しい。通訳の人にはありのままに通訳してほしい。誰でも通訳してもらえるように手配してほしい。

委員) 通訳・翻訳する人はきちんと選んでほしい。難しい言葉になるときちんと翻訳されていないことは私が K I C C で働いている時もよくあった。

委員) K I C C で働いている人はボランティアか？

K I C) ボランティアではない。

座長) K I C C ではたくさんの外国人を相手にするので難しいが、よりよいものとなるよう進めてもらいたい。

(3) 日本語学習支援について

(国際課より資料に沿って説明。)

委員) 神戸市がほとんど日本語がわからない人に向けた教室を行うのは素晴らしいこと。気になったのは会話中心とのことだが、参加者のレベルはまちまちだと思う。2 2 回学んだあと地域の日本語教室につなぐには、参加者のレベルの把握や基準が必要だと思うがどう考えているのか？

国際課) 欧州の基準 (C E F R) も参考にし、日常会話ができる C E F R ・ A 1 程度のレベルを設定している。また日本語の学び方の基礎も身に付けてもらう。

委員) ラテンコミュニティのメンバーで言えば、みな働いているので午前中のクラスに参加するのは難しい。最近の日系の人は子どもを保育所に預け夫婦 2 人とも働いている場合がほとんど。H I A が夜の教室をしているが、お父さんは残業があり、お母さんは子どもを迎えに行くので通うことができない。日曜日が一番行きやすいと思う。これまで日系外国人はあまり日本語に興味がなかったというのが正直なところ。しかし今回の法改正で日本語ができる外国人が働きに来ることで、仕事を失うのではと危機感を持つ人が増えてきており、日本語の学習をしないといけないうちで来ている。また自宅で日本語を学ぶことのできるようなものはないか。インターネットを使い勉強できたほうが良いと思う。

委員) やはり時間が気になる。日によって時間をずらしたほうが参加しやすいのではないかと。また教師の選定は非常に重要。日本語を学ぶことでどういうことができようになるかきっちりと説明でき、また教材の準備も含め授業に行きたくするような工夫のできる先生を選ぶことが重要。C B K では今土曜にやっており、学習者 10 人、先生 2 人だが場所が足りなくなっている。日本語能力試験を受けたいという生徒もいる。大城委員が言うように、これまでは言葉ができなくても仕事ができればよかったが、今後は日本語ができる外国人が入ってくるので、日本語の読み書きができないといけないうちで来ている。

委員) インディアメーラーの際、コミュニティの人に聞いてみた。ほとんどの人は大企業で働いており、企業内で日本語教育を受けている。問題は家族で奥さんと子どもが日本語をできない。曜日は金・土・日、時間は夜の時間帯、回数は週に 1 ~ 2 回程度のほうが参加しやすいと思う。参加費 4 千

円とあるが値段は問題ない。また学習方法はマンツーマンかグループかというグループで学びたいという人が多い。レベル設定もはっきり示してあげたほうがよい。この教室ではN1やN2まで教えるなど。スカイプなどITを使った教室はないかという声もあった。

委員) 家族滞在の奥さんも多いが、だいたい子どもを保育所に入れて働いているので、やはり時間としては午前中に参加することが難しい。夕方か夜のほうがフィリピンの人にとっては学びやすいと思う。託児というのはとても魅力的。またレベルは高くても低くてもよいが、レベルごとに目標設定をしてあげないと学習者が長続きしない。4千円という金額をみるとひいてしまうが、日本語を学ぶことで生活にどのようにメリットがあるのか、何のために学ぶのかという意識付けが重要。

委員) 外国籍の子どもは小学校で日本語の支援を受けているがまだまだ不十分。子どもたちも一緒に学べるような親子教室のような形でやってみてはどうか。また定員を10人に限っているのはなぜか？学びたいという人がいるのであればすべて受入れてあげるべきで、多数の場合抽選というのはどうかと思う。

国際課) 教師を1名しか現状確保できていないため、10人に設定している。

委員) 日本語学習の際は、日本における生活のマナーや習慣についても併せて学習できるようにしてはどうか。

委員) ベトナム人も毎日仕事をしており、夜(17時半以降)の教室も今後検討してほしい。そうすれば定住者だけでなく、実習生や特定技能の人でも来ることができる。特定技能の人は多少日本語ができるだろうが、基本的には試験に向けた学習に偏りがちで、生活の日本語が不足しがちになると思う。そのため、病院の行き方とか災害のこととかテーマに沿って日本語を学習したり、また学習者によってレベルが違うので教室のレベルを何段階かに設定したほうがよい。特定技能の人向けの試験対策クラスなどあれば、人は集まると思う。

座長) 神戸市としては今後様々なレベルの教室を作ること想定しているのか？

国際課) 行政としては生活に必要な日本語、CEFRというA1、A2レベルの修了までの教室を整備したいと考えている。そのあとは必要に応じて地域の日本語教室で学習してもらいたい。特定技能については、企業側に教育の義務があると考えている。

委員) 今回は7人だけかもしれないが、卒業生が口コミで広げてくれると思うので、まずは始めることが重要。

委員) ベトナム人も口コミで広がる。

国際課) 家族帯同者で日中働いていない層もいると聞いているが、そうした層のニーズについて何か知っている方はいらっしゃるか？また広報について何かアドバイスがあればいただきたい。

委員) HIAのようにレクリエーションやエクスカージョンなどもプログラムに入れて、動機付けを行っていくのはどうか。「日本を知るツアー」など。

委員) マサヤンタハナンもそうしたイベントを行っている。

(4) 日本人と外国人の交流の推進について

(国際課より資料に沿って説明。)

国際課) 何かご意見があれば後日連絡いただきたい。

(5) 情報発信について(国際課)

(国際課より資料に沿って説明。)

国際課) 日本人住民への情報発信について、何かご意見・ご提案があれば後日連絡いただきたい。

以上